
恋に恋して（番外編）

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋に恋して（番外編）

【Nコード】

N1839K

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

あずりんのハンサムな弟がついに上京しました。

卒業式を終えて2週間。

待っていた今日この頃。あずりんの弟が来ました。私に身を預けに。児玉新、まだ18歳。私もまだ22歳。あと数カ月で新君は19歳。そうしたら、3歳しか変わらない。わずか2カ月だけ。

「今日からよろしく願います」

「待ってたわ。あずりんは？」

「あと2カ月で生まれます」

「そうなんだ、楽しみね」

「はい、もうこんなに膨れてますよ」

手を大きく突き出してあずりんのまねをしている新君。何をしても可愛いわ、あずりんでなくてあなたが。

「今日は引越祝いに食べに行こうか」

「いや、家で食べましょう」

「そうする？ 私が奢ってあげるのに」

「いいえ、僕が作ります。家で練習してきました」

ほほう、そうなの。それってこれから楽しみじゃないの。新君は何を作るんだろう。気になって仕方が無い。まるで鶴の恩返しのように一人で頑張るっていうから、私はおとなしく待っていた。段々いい匂いがしてきたわ。これは何だろう。

新君は私のエプロンをして、出来たものは何と牛丼。それも玉ねぎがトロトロで美味しいことこの上ない。濃い味がまたイケる。

「安い肉でも、濃い味にしたら美味しいって母さんが教えてくれたんです」

「ふーん、お母さん料理がうまいのね」

後妻さんもこの性格のいい新君には優しいのね。よかった。それにしても美味しいわ。それにこの酢味噌あえがまたいいわ。キャベツとミョウガだけなのに。実にうまい。

「悪いけど、飲んでもいいかな」

「どうぞどうぞ。僕はウーロン茶で」

はあ、ビールにも合うじゃない。美少年がいると、これほど食事が楽しいの。ピンポーン。

「誰だろう」

「はい」

開けると渡辺君。

「今、あずりんのところから帰って来たんだ。弟が世話になってるからって御土産」

「なあに」

「おばあちゃん手作りの干物です」

「わあ、美味しそう」

渡辺君はおばあちゃんが作ってくれたアジの干物を渡すと、鼻をクンクンさせた。

「いい匂いじゃないか。なあに」

「新君手製の牛丼よ」

新君はさっさと熱々の牛丼を持ってきた。

「たっぷり作ったからどうぞ」

渡辺君は吉野家よりうまいと言いながらパクパク食べる。ついでにビールも。そうよね、あなたはここにいる新君のお兄ちゃんになったのね。あずりんは順調で、今は体重が7キロ増えたって。二人分っていうほど食べてはいけないってお医者さんに言われてるそうだ。太りすぎると妊婦さんに悪いらしい。はあ、随分と遠い世界の話になったわ。あのヘビースモーカーがママになるなんて。

3人で食べてると全然違和感がなくて、新君は大学生だから急に大人びた感じ。思わず酒を酌み交わしそうになる。あずりんの大事な預かり人ですから、そんなことはできません。普通は1回生でみんな酒を飲むけど、彼は別。

渡辺君が帰ると二人きり。風呂だってここで入るの。何だか意識するなあ。高校生の時はどうってことないって思ったけど、わずか

3カ月で意識するなんておかしいわよ、と自分に言い聞かせてみるんだけど。新君は食事を済ませると、さっと自分の部屋で勉強をするって。こんなに勉強する学生は見たことが無い。私はその間に片付けをして風呂に先に入る。前は女二人だから夜はブラジャーもせずにパジャマでウロウロできたけど、そういうわけにはいかない。でも、風呂上がりにブラジャーは嫌だから、ジャージーの上着を着る。分かんないだろうか、乳首ポイント。もういいや。

「新君、先にお風呂入ったわ」

「どうぞ。僕はもう少ししてから入ります」

何だかこの会話もちょっと同棲中みたい。でも、そんなバカなことばかり考えてないで、私も勉強を始める。弁護士は無理でも本ぐらいは読んでおかないと、みんなの足を引っ張るようになってはいけないし、上野先生に紹介してもらったんだから迷惑はかけられない。難しい本をビールの後で読んでも睡眠薬にしかない。すーっと、意識が遠のいていく。

気が付いたら毛布をかけてもらってる。新君ね。ありがとう。これではどちらが預かっているのか分からないわ。彼は風呂に入って鼻歌が聞こえてくる。あずりんと違って硬いイメージがあったけど、鼻歌なんて十分じゃないの。慣れてきたのね。これから4年間もいるんだから、お互いリラックスしないとやっていけないわよね。

風呂から出たらますます色が白くなって、もうドキドキするぐらいハンサム。

「芳野さん、これ、今月の部屋代です」

「ありがとう。これはいただくわ。食費はお互いが2万ずつ出して、足りなくなったら貰うし、それでいい？」

「はい、お願いします。姉が出産したら渡辺さんのところに戻ってくるから、そうしたら僕もそっちへ引っ越せて言われてます」

「そうなの？」

「ええ。芳野さんは嫁入り前だから、おばあちゃんが絶対だめって」
いいのに。私は楽しいハンサムな男性との二人暮らしを夢に描い

ていたのに。あーあ、じゃ、後2カ月だけの暮らしなのね、残念。

「芳野さん、仕事は面白いですか」

「そうね、私はまだ電話番号だけだから。でも、書類だけを見ている仕事じゃないから結構面白いかも」

「これから、いろいろ聞かせてくださいね」

「ええ、愚痴も聞かせると思うけど」

「こういう生活懂れていたんです。気兼ねしないで好きな人と楽しく暮らすこと」

あなたも苦労したのね。でも、好きな人って私のこと？　あなたも恋に懂れてるのね。ついこの前の私みたい。

可愛い新君、お気をつけ遊ばせ、私は毎夜毎夜爪をとがらせるかもよ。

『あずりん、お返しできないかもよ。大事な預かり人。出産したらお話ししよう、弟の行く末について』

ふう、もう1本飲もうっと。あずりんの安産を祈って。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1839k/>

恋に恋して（番外編）

2010年10月8日14時56分発行